

所沢市保健センターの 取り組みについて

所沢市保健センター
健康づくり支援課 茂木勝美

高次脳機能障害支援事業の年表

平成19年5月	高次脳機能障害者支援事業プロジェクト 立ち上げ 平成19年5月～平成20年2月 全9回会議開催
平成19年6月	埼玉県総合リハビリテーションセンター 視察
平成19年11月	高次脳機能障害者のつどい試行事業 開始 平成19年11月2日～平成20年3月21日 全9回
平成20年4月	高次脳機能障害者社会参加事業 高次脳機能障害者のつどい（通称：THB）開始 現在に至る

高次脳機能障害者社会参加事業 (平成20年度～)

●目的

高次脳機能障害の当事者及びその家族間の交流の機会を提供し、高次脳機能障害への理解の促進及び高次脳機能障害者の地域社会における自立と社会参加を促す

高次脳機能障害者社会参加事業 (平成20年度～)

●対象者

原則として65歳未満の高次脳機能障害者であり、著しい知的水準の低下がみられない者を対象

※保健センターまで通所できる方

※グループ活動に参加できる方

～高次脳機能障害者のつどい～ THBという名称の由来

- **T**（ところざわ）
- **H**（ハイレベル）
- **B**（ブレイン(脳))

『高次脳』の当て字から名付けました。

THBという名前は、メンバーみんなで考えたグループ名です。

THB 従事スタッフ

- 所沢市保健センターTHB担当保健師
- 看護師
- ボランティア

※年1回程度、THBの担当保健師・当事者の地区担当保健師・理学療法士・精神保健福祉士が当事者についての今後の方針を検討している。

THB 日程

- 毎週 火曜日(祝日を除く)
- 時間 13時30分～15時30分
- 場所 所沢市保健センター
1階機能回復訓練室
(内容によって変更もあります)

THB 1日の流れ

13:00~13:30	はじめの打ち合わせ 受け入れ、健康チェック
13:30~14:20	はじまりの挨拶 ○1分間チャレンジ ○とこしゃん体操、 ○ちょっと一言
14:20~14:30	休憩
14:30~15:20	プログラム実施
15:20~15:30	次回の確認、おわりの挨拶、解散
15:40~	片づけ、反省会

THB 1か月の流れ

1週目：話し合い

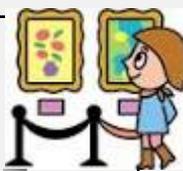
2週目：準備

3週目：実施

4週目：茶話会（ひと月の振り返りを兼ねる）

※内容によって実施が続く月もあります

平成27年度 THB プログラム表

4月 スポーツ	7日 (火) 14日 (火) 21日 (火) 28日 (火)	10月 陶芸②	6日 (火) 13日 (火) 20日 (火) 講師 27日 (火)	
5月 陶芸①	12日 (火) 19日 (火) 26日 (火) 講師	11月 DVD鑑賞	10日 (火) 17日 (火) 24日 (火)	
6月 調理	2日 (火) 9日 (火) 16日 (火) 3階 調理室 23日 (火)	12月 クリスマス会	1日 (火) 8日 (火) 15日 (火) 22日 (火)	
7月 作品づくり①	7日 (火) 14日 (火) 21日 (火) 28日 (火)	1月 newsTHB作成	5日 (火) 12日 (火) 19日 (火) 26日 (火)	
8月 作品づくり②	4日 (火) 11日 (火) 18日 (火) 25日 (火)	2月 newsTHB作成	2日 (火) 9日 (火) 16日 (火) 23日 (火)	
9月 作品鑑賞	1日 (火) 8日 (火) 15日 (火) 29日 (火)	3月 次年度の計画	1日 (火) 8日 (火) 15日 (火) 22日 (火)	



メンバーみんなで力を合わせて、作品づくり



【感想】

- ・共同作業、一生懸命頑張った！
- ・指先に力が入らないので大変だった。
- ・色の使い方など一人ひとりの個性が出たと思う。
- ・素朴だけど、味のある作品になった。
- ・思いもよらぬ作品になった。作る過程が楽しかった。
- ・昨年に比べ、美術展の内容がパワーアップしていた。

作品名：けやき通り「おーい！！」

THBの家族のつどい

○年4回実施

THBに参加している方、参加されていた方のご家族同士による、近況報告や苦労話、悩み、さまざまな情報交換などを和やかな雰囲気で開催しています。

※THB担当保健師が家族の会に参加

～事例紹介～

【利用～終了までの大まかな流れ】

- ①本人、家族からの相談にて受付
- ②地区担当保健師などが訪問し、本人や家族の状況、希望等の確認
- ③見学参加
- ④申込書などの手続きを経て正式加入
(主治医の意見書が必要)

※新規利用のご相談ありましたら、保健センターまでご連絡ください。

保健センターの今後の展望

- 高次脳機能障害についての啓蒙活動を続け、地域社会の理解の普及していく
- 高次脳機能障害者に特化した、または理解のある行き場（作業所等）が現状ではないことから、地域に対し、高次脳機能障害者が集える社会資源を創設していく働きかけを行っていききたい